

朱湯山寛徳院 長泉寺略縁起概況

住職 芹川 昭 教

(平成十四年十月二十日記)

愚僧、昭和四十三年四月晋山式しんざんを挙げてより三十四年、

余りにも短い年月に思えます。

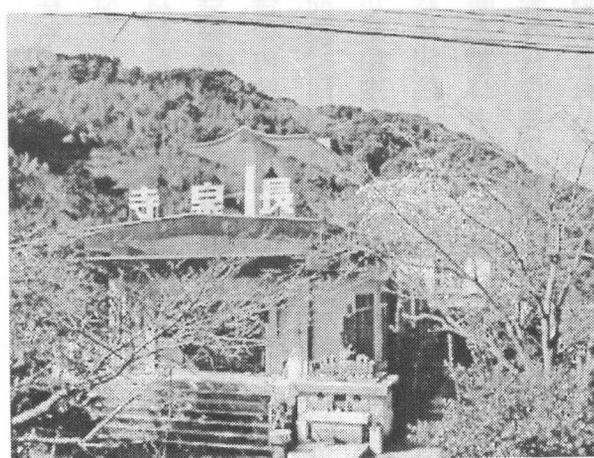
昭和三十二年妻を娶めとり、初めて長泉寺に住む(血の池地獄隣り)ようになったのですが、当時は客間八畳、居間六畳と玄関・本堂は仮本堂で、外陣がいじんの板壁よりお月様が見えました。野田地区の青年団と本堂で卓球をしたものです。今では楽しい思い出になりました。

前々住職の後藤静達上人も何かと長泉寺の発展に心掛け、それまでの寺領を昭和十一年から十二年にかけて売却し、本堂再建を願ったが檀信徒が少なく、資金も続かず再建に到らなかつた。

後藤静達上人が身体の調子が悪いのに前上人せりかわ(芹川正教)の所へ来られ「私に何かあったら後をよろしく頼む」と、充血した目をして話していました。丈夫な身体でし



▲先代住職芹川正教上人の寒行の雄姿



▲昭和四十三年移転後の長泉寺全景

たので一笑に付したのですが、それから一週間後の昭和二十七年二月二十九日に急逝し、閏年でしたので三月一日入寂としました。

当時、後藤静達上人より、長泉寺は天皇の勅願所だと聞いていましたが、何と荒れた寺だと思いました。後藤上人の葬儀当日は生憎の雨でルーフィングぶきの屋根より雨漏りがあり、タライ・洗面器を並べての葬儀でした。

先代住職の芹川正教上人は総代会を開き、善後策を協議しましたが、何ぶんにも少ない檀信徒だけに本堂の復興は結論が出ませんでした。そこで托鉢を行い、広く長泉寺復興のため寒行を行うこととし、翌年一月六日より約一ヶ月間、早朝六時より亀川、石垣、鉄輪、湯山、明礮地区を中心に毎年廻り、その浄財で本堂の屋根をトタンで補修し、雨漏りによる腐った畳換えと並大抵の苦勞ではなかったと思います。

昭和二十九年の畳換えと床所の修繕の時に内陣の下に大きな木箱があり、その中に二天と十二神将像及び二本の樗の柱を発見しました。各像の部位はバラバラに成っており、一部破損していましたが、別府大学考古学* * *先生よりの指導により復元し、現長泉寺に安置してい

ます。また樗の柱も、現在の長泉寺本堂の内陣の柱に使用している。

現在の長泉寺に移転する間は、行事にも何かと事欠く有り様でした。寺の再建、移転を念頭に竜巻地獄、血の池地獄との話し合いの結果、血の池地獄より現在地三百六十坪の土地を交換、建築費にも目途が立って、現在の地に移転したのが昭和四十三年四月でした。その後も寒行を足かけ三十八年間続け、浄土宗務庁より中興開山号と寒行慰勞の書を授与されました。

昭和十一年に先々代住職後藤静達上人の記した「長泉寺縁起」を見ていましたら、柴石の川の中の親仁親王枕石の碑（昭和五十一年台風で流失）と柴石温泉の裏に二反の敷地があり、説教所が在ったところに立派な手洗鉢があり、寺へ持っていけないかと言われたが、道が狭く運べなかったことを想い出します。

何時の頃からか、安部巖先生（別中の四年先輩）が入りするようになり、長泉寺史を書いてみようと言うことになり、先生死亡の一ヶ月位前に概略ができたので持つてこられたのが最後でした。

先生のご冥福を祈るばかりです。

（おわり）